

雨・水害への備えチェックシート（企業向け）

目的：本チェックシートは、企業が雨や水害に対する備えを確認し、事業継続計画（BCP）の強化を図るためのものです。

【STEP1】まずは自社の現状をチェック

1. ハザードマップの確認

- 自社の所在地がハザードマップ上で浸水リスク地域に該当しているか確認している。
- 近隣の河川や排水路の氾濫リスクを把握している。

2. 物理的な備え

- 排水設備の点検を定期的に行っている。
- 土のうや止水板などの水防資材を備蓄している。
- 電源設備（配電盤やサーバー）は床上1m以上の高所に設置されている。

3. データ・システムの保全

- 重要データのクラウド化や自動バックアップの設定を行っている。
- サーバーやNAS等の物理機器を高所に設置している。
- 非常時に備えたりリモート対応の体制を整備している。

4. 従業員の安全確保

- 警報発令時の出社ルールや在宅勤務への切替基準を明文化している。
- 避難経路や避難場所を従業員に周知している。
- 緊急連絡網を整備し、定期的に点検している。

5. 事業継続のシナリオ整理

- 水害によって操業不可となった場合の対応策（代替オフィス、テレワーク活用など）を策定している。
- 商品やサービス提供の中断リスクと復旧手順を明文化している。

6. 情報発信体制の整備

- 社内連絡手段（チャット、メールなど）を多重化している。
- 顧客や取引先への一斉連絡ルールを整備し、テンプレート化している。

7. 定期訓練と見直し

- 年に1回以上、BCPの見直しや防災訓練を実施している。
- 新たなリスク（気候変動や集中豪雨の増加）への対応体制を柔軟に整備している。

【STEP2】あなたのチェック数は？

- チェックが 12個以上：備えは十分です。引き続き継続してください。
- チェックが 8～11個：一部に改善の余地があります。見直しを検討してください。
- チェックが 7個以下：備えが不十分です。早急に対策を講じることをお勧めします。

【STEP3】備えが不十分な場合は…

「配電盤の位置?」「サーバーの移動?」「クラウドバックアップ?」
よく分からない・対応に不安がある方は、近くの事務機屋さんにご相談ください。